豊田工業高等専門学校			開講年度	令和03年度(	(2021年度)	授業	科目	現代社会学Ⅱ	
	<del>立工業的、</del> 一種情報	,	1 1/13/11/11/1/	11-1400 112	1/2/	1,12,7	· · · H	, u, u, a. a. a.	
科目番号		04210			科目区分	-		·R	
授業形態	Ĕ	講義			単位の種別と単位				
開設学科	4	環境都市	 L学科		対象学年	4			
開設期		後期				2	2		
教科書/勃	 教材	教科書は特別を推奨する		。 はプリントに沿っ 『子辞書でも良い)	っておこなう。/地 を持参のこと。	図帳ある	いは地図	を閲覧できるツール類を持ち込むこ	
担当教員	Į	佐々木 陽							
到達目	標								
(イ) 各 (ウ) 各	A種問題が地 A種問題への	域性や歴史的釒	発生要因を理解し, 条件を踏まえながら 人々の動向について	5発生していること	とを理解し,説明す	ることが	できる。		
ルーフ	`リック		到達レベルの目:	安 (優)	到達レベルの目:	安 (良)		到達レベルの目安(不可)	
現代社会		問題の発生要					の発生要		
現代社会における諸問題の発生 因を理解し,説明することがで る。			現代在芸における諸向題の発生要 因について,因果関係を踏まえて 説明できる。		因について, おる。	因について, おおまかに理解でき		現代社会における諸問題の発生要 因について,理解できない。	
踏まえな		歴史的条件を ていることを とができる。	各種問題が地域性や歴史的条件を 踏まえながら発生していることを 理解し,説明することができる。		踏まえながら発	各種問題が地域性や歴史的条件を 踏まえながら発生していることに ついて, おおまかに理解できる。		各種問題が地域性や歴史的条件を 踏まえながら発生していることに ついて,理解できない。	
	ついて理解し,	句けた人々の , 説明するこ	各種問題への対抗動向について理解とができる。	各種問題への対策へ向けた人々の 動向について理解し、説明するこ		各種問題への対策へ向けた人々の 動向について,理解できない。			
学科の	到達目標工	頁目との関(	係						
JABEE c	対育到達度目標 3 当該分野に 3目標 ① もの	おいて必要と	変化と要請を的確に される専門的知識。	に捉え、人の生活を とそれらを応用す	を支える社会基盤の る能力	役割をよ	く理解す	<b>ত</b>	
教育方	法等								
概要		象の槓み	重ねも内在している	ることかある。そこ	問題が存在する。そ 豆に関わり合って発 こで本講義では,現 沓まえながら考察を	代社会の	因から分 合もある 諸問題の	類すると,人間活動が主因もの,自 。さらにそこには地域性や歴史的事 発生要因と対策に向けた人々の動向	
授業の進	<b>並め方・方法</b>	講義は座	を配布する。 学のみならず, 受請 対論を行うことにす	構者が自ら地域的語 「る。	果題を見つけ,講義	から学んだ	だ研究視	角や分析方法を用いて調査を実施し	
注意点		普段から名継続的に担	各種メディアが報道 受業の予習・復習を	重する現代社会の名 ≥すること。	<b>各種問題にも関心を</b>	持ち, 自	ら調べた	り,考えること。	
	修の種別	普段からる 継続的に対	受業の予習・復習を	重する現代社会の名 ですること。	S種問題にも関心を	持ち, 自	ら調べた	り,考えること。	
選択必		継続的に <u>†</u> ・旧カリ科	受業の予習・復習を	質する現代社会の名 とすること。	S種問題にも関心を	持ち,自	ら調べた	り,考えること。	
選択必 授業の		継続的に <u>計</u> ・旧カリ科  多上の区分	受業の予習・復習を	道する現代社会の名 さすること。	S種問題にも関心を □ 遠隔授業対所		ら調べた		
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に <u>計</u> ・旧カリ科  多上の区分	受業の予習・復習を 目名 	値する現代社会の名とすること。			ら調べた		
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に打 ・旧カリ科  多上の区分   こング	受業の予習・復習を 目名 □ ICT 利用	値する現代社会の名とすること。		5		□ 実務経験のある教員による授業	
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に対 ・旧カリ科  多上の区分 ニング	受業の予習・復習を 目名  □ ICT 利用    授業内容   ・現代社会の調(配布資料の復習)	をすること。  者問題について 自ら現代社会の	□ 遠隔授業対応	週ごとの現代社会	)到達目標	□ 実務経験のある教員による授業	
授業の □ アク	属性・履作  ティブラーニ	継続的に対 ・旧カリ科  多上の区分 こング	受業の予習・復習を 目名  □ ICT 利用    □ ICT N □ ICT	をすること。  者問題について 自ら現代社会の記 3。)  (配布資料の復習,	□ 遠隔授業対所 諸問題について考 自ら現代社会の諸	週ごとの現代社会ることが現代社会	)到達目標 における できる。	□ 実務経験のある教員による授業	
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に対   ・旧カリ科    多上の区分   ニング   週   1週   2週   3週   3週	受業の予習・復習を 目名  □ ICT 利用  □ ICT NA	をすること。	□ 遠隔授業対所 諸問題について考 自ら現代社会の諸。)	週ごとの現代とかっている。現代といる。	)到達目標 における できる。 における できる。	□ 実務経験のある教員による授業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に対   ・旧カリ科   多上の区分   こング   週   1週   2週   3週   4週	受業の予習・復習を 目名  ICT 利用  受業内容 導入:現代社会の記 (配力) (配力) (配別) (配別) (配別) (記題) (記題) (記題) (記題) (記題) (記題) (記題) (記題	をすること。	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 。) 関係(配布資料の復 考えたり調べたり	週ごとの 会が 現代とが 現代とが 軽高る 種間 題 各種問題	到達目標 における できる。 における できる。 が地域性 とを理解	□ 実務経験のある教員による授業 ・ 実務経験のある教員による授業 ・ 諸問題の発生要因を理解し、説明す ・ 諸問題の発生要因を理解し、説明す ・ 説明することができる。 ・ へ向けた人々の動向について理解し	
選択必 授業の <pre> アク</pre>	属性・履作  ティブラーニ	継続的に対   ・旧カリ科   多上の区分   こング   週   1週   2週   4週   5週   1	受業の予習・復習を 目名  ICT 利用  受業内容 導入:現代社会の記 (配力調料である。) 問題事例1ので考えが問題について考えが問題について考えが問題について考えが問題について考えが問題について考えが問題。自ら現代社会のする。) 問題事例1の対策	をすること。	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 。) 関係(配布資料の復考えたり調べたり	週ごとの会が 現代ご 社とが 会で 発売の 会が 発売の 会が 会が 最ご を 種間 の おり 題ご と 種説明す	<ul><li>到達目標におる。</li><li>におる。</li><li>におきる。</li><li>が地理解することが</li><li>へのことが</li><li>における</li></ul>	□ 実務経験のある教員による授業 ・ 実務経験のある教員による授業 ・ 諸問題の発生要因を理解し、説明す ・ 諸問題の発生要因を理解し、説明す ・ ごや歴史的条件を踏まえながら発生しまし、説明することができる。 ・ できる。	
選択必 授業の アクラス 授業計	属性・履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 原作 - □	継続的に対   ・旧カリ科   多上の区分   こング   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   6週	受業の予習・復習を 目名  ICT 利用  授業内容 導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	をすること。  者問題について自ら現代社会の記念。) (配布資料の復習,こり調べたりする。) (地域性と歴史的関か諸問題について記事) 自ら現代社会の記念。) 自ら現代社会の記念。)  は関係社会の記念。)	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 。) 関係(配布資料の復考えたり調べたり 諸問題について考 諸問題について考	週 現る 発て 各が 会が 題ご とれと 間の できる ひまり	2到達目標にでいます。 にでいます。 はでが地をでいます。 はでが地でである。 はである。 はである。 はである。 はである。 はである。 はである。 はである。 はでする。 はでする。 はでする。	□ 実務経験のある教員による授業 は は は は は は は は は は は は は	
選択必 授業の	属性・履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 原作 - □	継続的に対   ・旧カリ科   多上の区分   こング   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   70   70	受業の予習・復習を 目名  「ICT 利用  「「ICT 利用  「「「「「「「」」」」  「「「「」」」  「「「」」  「「」  「「」  「「」  「「  「	をすること。  お問題について自ら現代社会の記念。  「配布資料の復習のである。」  「記布資料の復習のである。」  「地域性と歴史的関わる。」  自ら現代社会の記念。  自ら現代社会の記念。  は世と歴史的関いる。  は地自らりでは、  は地域性と歴史的関いる。  は地自らり現代社会の記念。  地域性と歴史的関いる。  は地域性と歴史的関いる。	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 自ら現代社会の諸 考えたり調べたり 諸問題について考 諸問題について考 閣係	週 現る 現る 各て 各, 現る 各て 各が 題ご 題す 会が 題ご 題す 会が 題ご 題す	到達目 ける。にでにでいたという。にではなる。はもきがといる。は理がといる。にでがとなる。にでがといる。は理がは、いるのにはない。は解解がない。はないはないはない。はないはないはない。	□ 実務経験のある教員による授業  「議問題の発生要因を理解し、説明する。」 「講問題の発生要因を理解し、説明する。」 「おいた人々の動向について理解し、できる。」 「はいた人々の動向について理解していてきる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解したできる。」 「はいた人々の動向について理解した」 「ないた人々の動向について理解した」 「ないたんないたの動物」について理解した。 「ないたんないたの動物」にいたの動物できる。	
選択必担業の日本の対象を表現である。	属性・履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 原作 - 原作 - 原作 -	継続的に対   ・旧カリ科   多上の区分   こング   週   1週   2週   3週   4週   5週   6週   7週   8週   80   80	受業の予習・復習を 目名  「ICT 利用  「関業内容」では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個では、一個	をすること。  お問題について自ら現代社会の記念。) (配布資料の復習, こり調べたりする。) (配布調べたりする。) は地域性と歴史的関の諸問題についてご自ら、現代社会の記念。) は地域性と歴史的関係社会の記念。) は地域性と歴史的関自ら、地域性と歴史の関します。)	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 身係(配布資料の復考えたり調べたり 諸問題について考 諸問題について考 場係 諸問題について考	週 現る 現る 現る 発 て 程 い 種 い 種 い 種 い 種 い 種 い 種 い 種 い 種 い 種 い	到達目 ける。 にで にで がと から は理 対と ける は理 対と ける 域理 対と ける 域理 地を 地を 地を 地を 地を 地を がと	□ 実務経験のある教員による授業  「議問題の発生要因を理解し、説明する。」 「お問題の発生要因を理解し、説明する。」 「本できる。」	
選択必担業の日本の対象を表現である。	属性・履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 原作 - 原作 - 原作 -	継続的に注 ・ 旧カリ科  多上の区分 ニング   週	受業の予習・復習を 目名  「ICT 利用  「関連 内 : T ( )	をすること。  お問題について自ら現代社会の記念。) (配布資料の復習, こり調べたりする。) (配布調べたりする。) は地域性と歴史的関の諸問題についてご自ら、現代社会の記念。) は地域性と歴史的関係社会の記念。) は地域性と歴史的関自ら、地域性と歴史の関します。)	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 自ら現代社会の諸 考えたり調べたり 諸問題について考 諸問題について考 諸問題について考 関係 諸問題について考	週 現る 現る 各て 各、現る 各て 各、現る と 社と 社と 問る 問明 社と 問る 問の 間の 間の 社の 種の 種の 種の 種の でまた 代の 種の できた と	到 にで にで がと いる は理 対と ける は理 対と ける は理 対と ける 域理 対と ける 域理 対と 問がと がと のこ 諸 がと のこ 諸 がと のこ 諸 がと のこ 諸 がら る。	□ 実務経験のある教員による授業  「議問題の発生要因を理解し、説明する。」 「お問題の発生要因を理解し、説明する。」 「本できる。」 「本できる。 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
選択必 授業の アクラス 授業計	属性・履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 履作 - 原作 - 原作 - 原作 -	継続的に注 ・ 旧カリ科  多上の区分 ニング   週	受業の予習・復習を 目名  「ICT 利用  「関連のでは、	をすること。  諸問題について自ら現代社会の記念。) (配布資料の復習, こり調べたりする。) (配布資料の復習, こり調べたりする。)  地域性と歴史的関の諸問題について記念。) 自ら現代社会の記念。) は地域性と歴史的関い。 は地域性と歴史的関い。 はい域性と歴史的関い。 はい域性と歴史的関い。 はい域性と歴史的関い。 はい域性と歴史的関い。 はいは性と歴史の関い。 はいは性と歴史の関い。 はいは性と歴史の関い。 はいは性と歴史の関い。 はいは性と歴史の関い。 はいはは、といるには、はいるは、はいる	□ 遠隔授業対応 諸問題について考 自ら現代社会の諸 自ら現代社会の諸 考えたり調べたり 諸問題について考 諸問題について考 諸問題について考 諸問題について考 諸問題について考 諸問題について考	週 現る 現る 各て 各, 現る 各て 各, 現え 現る 代ご 代ご 様と 社と 間る 間明 社と 間る 間の 間の 代が 社が 社と 間る 間の 間の 間の 間明 社が 社の 題ご 題す 会が 会が 選ご の 会が 会が いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	到 にで にで がと いる にで がと いる の説の説の はってい がと いる は理 対と ける は理 対と 間で 間で 間で 間で 間が くん こん	□ 実務経験のある教員による授業  「はお問題の発生要因を理解し、説明する。」 「はいた人々の動向について理解し、説明することができる。」 「はいた人々の動向について理解します。」 「はいた人々の動向について理解します。」 「はいたのできる。」 「はいたのできる。」 「はいたのできる。」 「はいたのできる。」 「はいたのできる。」 「はいたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたのできる。」 「ないたいたのできる。」 「ないたいたいたのできる。」 「ないたいたいたいたいて地域性や歴史的条件を踏まる。」 「ないたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいたいた	

	1.7	\ <sub>Ш</sub> ;	報告	(4) (却什么	(業)をのための準備)	現代社会の諸問題について地	域性や歴史的	条件を踏ま	
	12週				一	えながら説明できる。建設的	」な議論ができ	:る。	
	13	13週 報		(5) (報告だ	一	現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏ま えながら説明できる。建設的な議論ができる。			
14週 報告			報告	(6) (報告だ		現代社会の諸問題について地域性や歴史的条件を踏ま えながら説明できる。建設的な議論ができる。			
	15	週	総括			これまでの内容を整理し、理 これまでの講義や議論の内容	解を深める。 を適切に復習	する。	
	16								
	アカリキュ	1	学習	内容と到達	1		7011 - NI	1427HF/123	
分類	人文・社会 科学	社会		学習内容 現代社会の 考察	学習内容の到達目標 現代社会の特質や課題に関する適切が用して探究し、その成果を論述したりを通して、世界の人々が協調し共存でについて人文・社会科学の観点から別	り討論したりするなどの活動 できる持続可能な社会の実現	到達レベル 3	授業週 後1,後2,4 3,後4,後 5,後6,後 7,後8,後 9,後10,後 11,後12,13,後14,15	
					  書籍、インターネット、アンケート  収集することができる。 	3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15		
					収集した情報の取捨選択・整理・分類などにより、活用すべき情報を選択できる。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
		<b>彩用的技能</b>		収集した情報源や引用元などの信頼性・正確性に配慮する必要が あることを知っている。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15		
			用的技能。汎	能 汎用的技能	情報発信にあたっては、発信する内容及びその影響範囲について 自己責任が発生することを知っている。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
					情報発信にあたっては、個人情報および著作権への配慮が必要であることを知っている。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
分野横断的	汎用的技能				目的や対象者に応じて適切なツールや手法を用いて正しく情報発信(プレゼンテーション)できる。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
能力	, w 13-33ARL		<b>∠110</b>		複数の情報を整理・構造化できる。		3	後1,後2,4 3,後4,後 5,後6,後 7,後8,後 9,後10,後 11,後12, 13,後14, 15	
					課題の解決は直感や常識にとらわれてればならないことを知っている。	解決は直感や常識にとらわれず、論理的な手順で考えない ないことを知っている。		後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
					どのような過程で結論を導いたか思考の過程を他者に説明できる。 。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
					事実をもとに論理や考察を展開できる。		3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15	
					結論への過程の論理性を言葉、文章、 る。	3	後9,後 10,後11, 12,後13, 14,後15		

評価割合

	定期試験	課題	合計		
総合評価割合	70	30	100		
基礎的能力	70	30	100		